

原子力安全検討会
第5回 議事録

日時： 2013年2月26日(火) 15:00 ~ 18:15

場所： 原子力安全推進協会 第3会議室

出席者： 田中主査(東大)、関村副主査(東大)、飯倉委員(東芝)、千種委員(関電)、
宮田委員(東電)、宮野委員(法政大)、守屋委員(日立GE)、山口委員(阪大)、
河井分科会幹事(原安進)、成宮分科会幹事(関電)、平川分科会委員(原安進)

オブザーバー： 窪小谷(原安進)、橋本(原安進)、久持(日立GE)、田中(エネ総研)

事務局： 室岡(原子力学会)

(敬称略)

配布資料：

- ・ 資料5-1：第4回原子力安全検討会 議事録(案)
- ・ 資料5-2：標準委員会シンポジウム(H25.2.5)結果
- ・ 資料5-3：人事について
- ・ 資料5-4-1：原子力安全の基本的考え方について第1編(案)(H25.2.26版)
- ・ 資料5-4-2：コメント対応表
- ・ 資料5-5-1：深層防護の考え方について
- ・ 資料5-5-2：IAEA技術要件(SSR)とObjective Treeの分析について
- ・ 資料5-6：今後のスケジュール

参考資料：

- ・ 参考資料-1：第4回原子力安全検討会 議事メモ(案)
- ・ 参考資料-2：H25.2.5 標準委員会シンポジウム 発表資料
- ・ 参考資料-3：日本原子力学会 2013年春の年会

議事及び主な質疑応答

(1) 前回議事録確認

成宮分科会幹事より、資料5-1を用いて、第4回原子力安全検討会の内容について確認が行われた。確認の結果、特にコメントは無く議事録は正式に承認された。

(2) 人事について

成宮分科会幹事より、資料5-3を用いて、河合委員の退任、山岸委員の選任が報告された。

(3) 標準委員会シンポジウムの結果報告

資料5-2を用いて、成宮分科会幹事より、2月5日に開催された標準委員会シンポジウムの結果報告と会場での質疑及び出席者アンケートに対する回答方針について説明があった。主な議論は以下の通り。

- ・学会のホームページに回答を載せる際、コメント等に記載のある理解に要しない氏名は原則記載しない。記載が必要な場合は本人に確認する。
- ・コメント2（全般）での回答趣旨が不明。回答趣旨としては、対象を JEAC4111 に限定するより、全体として捉えた方がよい
JEAC4111 の記載部分は削除する方向として回答内容を見直す。その他記載振りも調整する。
- ・むしろ「回答不要」としたところにつき、妥当性を再確認ありたい。
- ・回答は、可能であればここ2～3日を目途に対処ありたい。

（４）原子力安全の基本的考え方 第1編（案）について

資料 5-4-1 と資料 5-4-2 を用いて、成宮分科会幹事より、標準委員会に向けた原子力安全の基本的考え方 第1編 の構成について説明があった。主な議論は以下の通り。

- ・全体として概要から5章までが冗長かつ内容・意図が不明瞭。補足すべきは解説等に回して本体構成は簡潔な方がよい。
かつて本体議論の前に各種コメントが出たため、前書きで丁寧に述べた。今般理解も進んできたので、解説でよいものは解説に移す。5章は1章に含めることで検討する。その1章もすでに冗長であるところ合わせて内容を再検討する。
- ・「個人」に関する記述では各種の言回しや修飾語が付いており一定していない。各箇所の趣旨を確認の上、記載振りを整理ありたい。
個別コメントの記載振りの改定と合わせて整理する。
- ・規制当局の監督や公明性の維持などに触れる必要はないか。或いは国会が規制当局を監督する役目も必要ではないか。
本書の「政府」には立法府も含むとしており、現状案においてもその趣旨は取り込まれている。
国際機関の活用などもあり、解説などで言及もできよう。
- ・解説 18 は冗長。深層防護は別途まとめるので、ここは簡潔にありたい。解説 18 の冒頭の段落の軍事に関する記述も無用
解説 18 は 位までとし、軍事に関する記述は削除する。重要な用語にも深層防護は入れない。
- ・原則 1 で「役割に応じ安全に対する責務」に改定しているが、誰が「役割」を規定するのか。この規定振りでは役割を誰かが設定しないと責務に繋がらず、結果、責務はどこか別のところで与えられるとの誤解を生む。
「役割に応じ」は削除して元に戻す。コメント対応表などの関連部分も合わせて修正する。
- ・IAEA の図書など参照している図書類は、参考文献リストのような形でまとめた方が判り易いのではないか。本書や今般の新安全基準などの国内動向は国際的にも注

目・フォローされている状況を理解されたい。

構成を整理の上、引用文献のまとめなどを付すことで検討する。

- ・第1編全体として前置き部分は簡潔かつ明快にし、必要なものは解説とすること。次回標準委員会までに整理ありたい。

(5) 深層防護の考え方、技術要件の検討状況について

資料5-5-1と資料5-5-2を用いて、河井分科会幹事より、深層防護の考え方と技術要件の検討について概要と今後の方針の説明があった。主な議論は以下の通り。

資料5-5-1 深層防護に対して

- ・多様な議論を阻害すべきではない。むしろ議論の活性化を図って貰いたい。徒にまとめを急がず、論点の抽出に関してまず整理ありたい。今議論を集約する段階になり。学術論文の変遷もフォローの上、参照されたい。

深層防護の考え方を整理して、その整理からIAEAやWENRAなどの考え方が説明・消化できればよいものと思料。この中で目的と適用のあり方を主体としていきたい。第1編のように、まず議論用としての発行も考えたい。

資料5-5-2 技術要件に対して

- ・本来は、まとめている基本原則と深層防護により、国内版での検討が必要。福島第一の状況をテストケースとして検証してみることも大切。整理と合わせて分析もできればよい。

(6) 関連事項

宮野委員より、原子力規制委員会の新安全基準骨子案に対する公衆審査の対応について紹介があった。原子力学会として大きな取組み姿勢に関する意見を具申し、それをフォローする形で標準委員会としても技術的な意見を提出する。提出意見案に対してコメント等あれば宮野委員まで連絡することとなった。また、学協会規格類協議会など関係機関の取り組みについても紹介があった。地震・津波などに大きな課題もあり、今後とも関連機関と連携して検討を継続していく。

(7) 次回検討会日程

成宮分科会幹事より、資料5-6により、今後のスケジュールについて説明があった。次回検討会は、6/5(水)PMに決定した。

以 上